



Wilhelm・Conrad・Röntgen
ヴィルヘルム・コンラート・レントゲン
1895年 X線発見

放射線だより

from Radiation House

マンモグラフィについて

マンモグラフィ検査では、乳房を上下方向と斜め方向から圧迫し、乳房を薄くした状態で撮影していきます。

X線を使用し、乳房内の組織の差を写し出すことで、石灰化や乳がん等を描出し、乳がんの早期発見につなげていきます。

検査時の注意点

- ・乳房が張っている時期は、乳房が引き出しにくいいため、普段より痛みを伴うことが多いです。
- ・放射線を使用した検査のため、妊娠中や妊娠の可能性がある場合は胎児へ影響する恐れがありますので、ご相談ください。
- ・人口乳房（インプラント）やペースメーカーが入っている場合は、破損の恐れがあるためマンモグラフィ検査を受けることができません。

マンモグラフィ装置が新しくなりました！

従来行っていた2D撮影に加え、乳房を複数方向から撮影する3D撮影が可能となりました。

2Dでは見落とすことの多い、乳腺の重なりや石灰化に隠れた病変を発見しやすくなり、乳がんの早期発見に役立ちます！

放射線科では待合室でマンモグラフィについてのビデオを流していますので、そちらもぜひご覧ください。

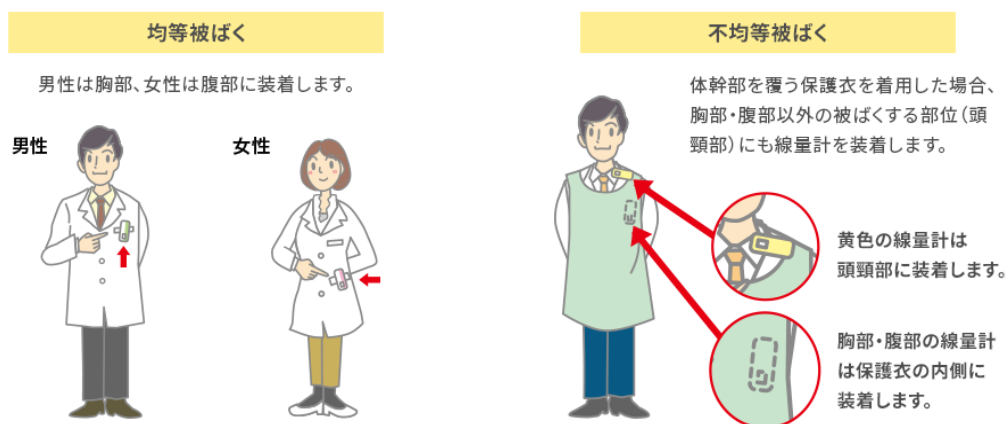
（文責：伊藤）

ガラスバッジの着用について

X線装置、RI等を取扱う放射線業務従事者は、個人被ばく線量の測定およびその結果の記録・保管が各種法令等により定められています。

放射線を取扱う業務中、該当箇所にガラスバッジを装着していただきます。一ヶ月毎に交換、返却してください。

装着部位



ガラスバッジの線量測定を行なったのち、その結果表を個人にお渡しします。結果の値を参考に、現在の作業環境が適切であるかを評価することが重要です。

個人被ばく線量が法令で定められた限度を超過した場合は、該当者への診察・処置や監督官庁への報告が義務付けられています。

線量限度について

区分		実効線量限度(全身)	等価線量限度(組織・臓器)
放射線業務従事者	平常時	100mSv/5年 ^{*1} 50mSv/年 ^{*2} 女子 5mSv/3月間 ^{*3} 妊娠中の女子 1mSv (出産までの間の内部被ばく)	眼の水晶体 100mSv/5年 ^{*1} 及び50mSv/年 ^{*2} 皮膚 500mSv/年 ^{*2} 妊娠中の女子 2mSv (出産までの間の腹部表面)
	緊急時 ^{*4}	①100mSv ②250mSv	眼の水晶体 300mSv 皮膚 1Sv ^{*5}

月初めになりましたら、医師は各科外来受付、研修医は医局にて各自ガラスバッジの交換をお願いします。看護師はナースステーションで管理をお願いします。

返却が3ヶ月以上遅れますとガラスバッジ代金 8,030 円(現金のみ)を個人で負担していただきますのでご了承ください。

不明点あれば、放射線科までご連絡ください。(PHS:1151) (文責:吉原)